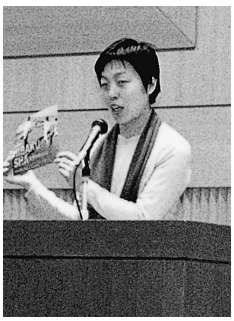
日本のマスメディアが報道しない“イラクの現状”
――緊急報告集会「イラク民衆の目から自衛隊を見る」

2月25日の夜，弁護士会館クレオにおいて，日弁連と東京三会との共催で，「イラク民衆の目から自衛隊を見る」と題した緊急報告集会が開かれた。報告者は，ドキュメンタリー映画監督の鎌仲ひとみさんと，名古屋弁護士会の小野万里子弁護士で，2人からは，イラク民衆が今求めているものは何なのか，具体的な報告がなされた。

●劣化ウラン爆弾でイラク全土が放射能汚染


鎌仲ひとみさん

鎌仲ひとみさんは，1998年に取材で出かけたイラクで，湾岸戦争の際使われた劣化ウラン爆弾によって，大勢のイラク人が体内被曝をし，特に子ども達が白血病にかかって死亡している事実を知ったという。もともと医療技術があった国なのに，経済制裁によって医薬品が入ってこないため，必要な治療が受けられず，死亡していく子どもが大勢いる。下痢止めや熱さましもない医療機関もあるという。ある家族は，放射能で汚染された土地と知りながら，貧しいため，その土地で作物を作り，家族で食べて暮らしていた。

湾岸戦争に参加したアメリカ兵の中に，多数の白血病患者が出ている。今やイラク全土が放射能に汚染されている状態である。イラクに駐留している自衛隊員も，体内被曝して，将来白血病を発症する可能性があるという。



鎌仲さんは，こうした事実が，日本のマスメディアでは報道されないため，「ヒバクシャ　HIBAKUSHA　世界の終わりに」というドキュメンタリー映画を作ったとのことであった。

●経済制裁による医薬品の不足が深刻


小野万里子弁護士

小野万里子弁護士は，普通の日本人ができる支援として，経済制裁で薬が入らないイラクの病院に薬を届ける活動を始めた。自分で薬を持ち込み，実際に病院に出かけ，患者にも会っての活動を続けている。その中で，イラク人とのつながりができ，イラク人から求められて，イラク人医師を日本に招いたり，イラクでは治せない重い白血病の子どもを治療のために日本の病院に受け入れてもらったりしている。

イラク人の多くは，日本人に好意を持ち，日本をアジアのエースと考え，日本の土木技術や工業技術に高い信頼を寄せてくれていた。そのイラク人から，なぜ日本は軍隊を送るんだと言われている。昨年11月にイラクを訪れた時には石を投げられた。日本のイメージが悪くなっていることが心配だという。

●イラク民衆にとって必要な支援とは何か

2人とも，自衛隊の派遣についてはマイナスが大きいと述べていた。自衛隊派遣のために使われる359億円があれば，どれだけ多くの白血病の子どもを救うことができるだろうか。

劣化ウラン弾による放射能汚染と，経済制裁による医薬品不足は，我が国のマスメディアでは，ほとんど取り上げられない事実である。イラク民衆にとって，何が必要な支援であり，我々は何をなすべきか，改めて確認できた集会であった。

（憲法問題等特別委員会事務局長　海老原 信彦）